

- 1 教育事業名 「わくわく自然体験 in とかしき」
～渡嘉敷で感じる平成最後の夏～
- 2 ね ら い 法人ボランティアがこれまで培った知識・技能・経験を活かし、自然体験活動における実践的な取り組みをとおして、ボランティアとしての意識の向上を図る。また、参加者に対し、集団宿泊体験をとおして、家族や仲間との交流、ふれあいの大切さや自然体験活動の魅力を伝える。
- 3 期 日 平成30年10月20日（土）～21日（日）1泊2日
- 4 場 所 国立沖縄青少年交流の家
- 5 募集定員 100名 30組程度
- 6 参加人数 38名 13組
- 7 参加者内訳 幼児6名 小学生15名 中学生1名 大人16名
(男性17名、女性21名) (県内38名)

8 実施プログラム

	9:00	9:30	10:00	11:10	11:30	12:00	13:00		16:00	17:30	19:30	21:00
1 日 目	集合・受付	乗船開始	出航	移動	開会式	昼食	海洋研修	移動	夕食・入浴	クラフト	就寝	
	6:00	7:00	7:40	9:30	10:00	10:15	10:30		13:30	14:00	14:30	15:30
2 日 目	起床	つどい	朝食	移動	準備	レクリエーション	野外炊事(カレー)	片付け	閉会式	移動	出航	

9 事業の様子



〈オープニング〉



〈海洋研修オリエンテーション〉



〈ボランティアによる説明〉



〈大型カヌー〉



〈スーパーフロート〉



〈オープンカヤック〉



〈家族で貝殻拾い〉



〈入所オリエンテーション〉



〈フォトフレームオリエンテーション〉



〈家族でフォトフレーム作り〉



〈大きなフォトフレーム作りに挑戦〉



〈野外炊事オリエンテーション〉



〈火起こしに挑戦〉



〈美味しいカレーが完成〉



〈班ごとにいただきます〉

10 エピソード (参加者の声、アンケートより)

【参加者の声】

- ・ボランティアの皆さんから熱意が伝わってきて、信頼できた。
- ・ボランティアの皆さんの説明が丁寧でわかりやすかった。
- ・火起こしの際の具体的なアドバイスを言ってくれた。
- ・どのプログラムも工夫が感じられよかった。

【ボランティアの声】

- ・普段携わることのない企画・運営・進行が経験できて様々な力がついた。
- ・楽しく活動することができた。
- ・補助的なことしかやっていたが、実際に企画・運営してみて、大変さや、事業実施後はやり終えた達成感などを感じることができた。
- ・参加者に対する声かけやアドバイスの伝え方に苦戦した。今後のボランティアをとおして自己成長に繋げたい。

11 担当者所見

(1) 成果

- ・企画会議では、プログラムの立案や運営方法などについてボランティア同士で活発に意見を出し合うことができた。また、企画会議以外でも大学の空き時間を利用して話し合いを行うなど、自主的な動きもみられた。
- ・はじめは緊張した様子だったが、参加者とコミュニケーションを取る中で表情も和らぎ、運営を楽しみながらボランティア間で連携のとれた動きが見られた。
- ・運営を円滑に行えるよう事業全体を見通した動きや参加者への臨機応変な対応もみられ、本事業をとおしてボランティアとしての意識の高揚を図ることができた。
- ・参加者には、本事業は学生ボランティアが主体となり企画・運営を行う事業であることを伝え、事業のねらいについて理解していただいた。事業全体としては行き届かない面もあったが、渡嘉敷島での自然体験活動をとおして、家族での体験活動の場を提供することができた。

(2) 課題

- ・より多くの学生ボランティアの事業への参画を得るため、本事業の開催日程を学校の休業時期等を考慮して決定する必要がある。
- ・本事業以外でも、ボランティアに課題を与えたり、参加者に対するオリエンテーションを担当させるなど、事業運営に携われる機会を設ける必要がある。
- ・ボランティアへの支援が必要な場面を見極め、それぞれの意見を尊重しつつ、適切な指導や助言を行う等、複数の職員による支援体制の充実を図りたい。